

# 日本 ～訪日外国人の消費が日本経済を下支え～

経済調査部 副主任エコノミスト 高橋 大輝(たかはし だいき)

## 消費、生産は足踏み状態

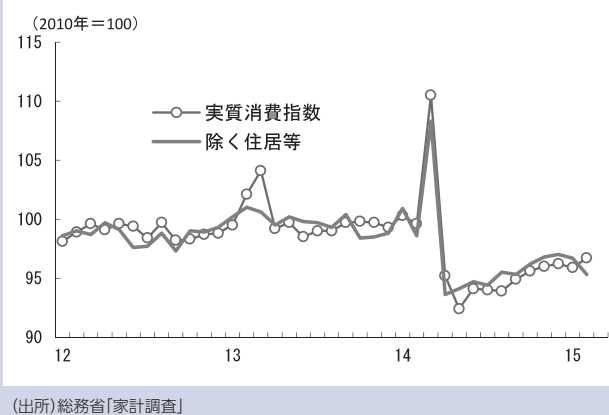
原油価格の下落に伴う負担減、海外経済の持ち直し、賃金、雇用の増加など、日本経済を取り巻く環境は好転しているものの、まだ景気の本格回復には結びついていない。

個人消費は2月も弱い動きが続き、消費税率引き上げ後の低迷から抜け出せていない。2月実質消費支出は前月比+0.8%と小幅増加したが、振れの大きい住居や自動車購入といった項目を除いたベースでは同▲1.4%と減少した上、減少幅も比較的大きなものとなった。

また、2月の鉱工業生産は同▲3.4%と市場予想を大きく下回る減少となった。今年は中華圏の春節がかなり遅い時期にあったことでより実勢から下方乖離している可能性はあるが(春節の時期は毎年異なるため、1、2月は統計が歪みやすい)、そうした影響を均すために1、2月の平均を見ても、足取りの鈍さが目立つ。緩やかに改善はしているものの、物足りない結果と言えよう。併せて公表された先行きの見通しも弱めの結果となっており、生産の増加基調は緩やかなものとなりそうだ。

その他、輸出も弱い結果となるなど、総じてみれば、日本経済には足踏み感がある。

### 資料1 実質消費支出(季節調整済)



## 訪日外国人の消費は好調

足取りが鈍い指標が目立つ中、過去最高を何度も更新している指標がある。訪日外国人数だ。訪日外国人数は2013年に初めて1,000万人を越え、2015年2月には単月で過去最高となる138万7千人を記録するなど、足元でも好調が続いている。要因としては、円安による日本旅行の割安感、東南アジアのビザ要件緩和、周縁国の経済成長などが挙げられる。加えて、2014年10月からは免税要件が緩和されたことで、百貨店では訪日外国人売上高が前年の2倍以上、月によっては3倍以上も増加するなど、中国人観光客を中心に「爆買い」が起こっている。

観光庁によると、2014年訪日外国人消費額は前年から約6,000億円増加した。訪日外国人消費は、2014年の名目GDPを0.1%pt程度押し上げた計算になる。訪日外国人のパワーが目に見える形で現れてきた。

とはいえ、国内景気の本格回復に必要なのは、やはり国民の国内消費だ。前述したように個人消費は弱い動きが続いているが、先行きには明るい兆しが見えている。個人消費に大きな影響を与える賃金に目を向けてみると、2015年春闘では多くの企業が昨年を上回る賃上げを実現している。こうした賃金の増加を背景に「爆買い」とまではいかずとも、個人消費にも徐々に加速感が出てくると見込んでいる。

### 資料2 訪日外客数

